

第5学年 社会科学学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「工業生産とわたしたちの暮らし」 教材名「くらしや産業を支える工業生産」

2 単元の目標

我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っていることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(3)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っていることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①くらしや産業を支える工業生産の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「くらしや産業を支える工業生産」は、第5学年の(3)を手掛かりに、人々の働きと社会の仕組みを調べる単元である。中心となる理解は、我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っていることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、身の回りの工業製品を分類するところから始め、交通や土地利用との関係を考える活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には工業生産の概要を説明することで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」を中心の問いに据える。工業製品を用途と種類で分類し、工業の盛んな地域の地図を港や交通網の地図と比べる。生産額など統計の意味を確かめ、身の回りの製品と全国の生産地域を結び付ける。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。大きな工場がある所だけが工業地域と考える場合、中小の工場や多様な製品も資料で示す。

工場数と生産額の多さを同じものとして扱わない

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。統計の年度・単位・範囲を確認する。企業名の知名度を地域の工業の大きさと置き換えない

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身の回りの工業製品を分類する。 ○工業の種類と用途を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○生産地域の分布を地図で読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	3 （本時を含む）	○交通や土地利用との関係を考える。 ○暮らしと他の産業を支える役割を話す。 ○工業製品を用途と種類で分類し、工業の盛んな地域の地図を港や交通網の地図と比べる。生産額など統計の意味を確かめ、身の回りの製品と全国の生産地域を結び付ける。	思①（個人の説明・記録）
第4次	4	○工業生産の概要を説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）

6 本時の指導（3／4（配当案））

（１）本時の目標

「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「身の回りの工業製品を分類する」ときの疑問を取り出す。 ○「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っているのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・統計の年度・単位・範囲を確認する。企業名の知名度を地域の工業の大きさと置き換えない
展開 （ 分）	○工業製品を用途と種類で分類し、工業の盛んな地域の地図を港や交通網の地図と比べる。生産額など統計の意味を確認し、身の回りの製品と全国の生産地域を結び付ける。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・交通や土地利用との関係を考えることで、理由を確認したい。	・大きな工場がある所だけが工業地域と考える場合、中小の工場や多様な製品も資料で示す。工場数と生産額の多さを同じものとして扱わない ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思① 「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】我が国には様々な工業があり、工業製品は国民生活の向上に役立っている。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に「くらしや産業を支える工業生産」と本時の問い「工業の盛んな地域は、くらしや産業をどのように支えているだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。交通や土地利用との関係を考える際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

